

ICT活動報告

院内感染対策防止委員会 大石 孝子 石川 睦子 柚原 直美
藤田 浩之 杉山八重子 望月 久夫

「感染防止」は医療の質の向上と共に、重要な病院リスクマネジメントの一つとして位置づけられる。また病院収支に影響を与えると共に、ひとたびアウトブレイクが起これば、病院のイメージダウンに繋がる。当院では感染防止委員会が実践チームであるICT (infection control team) と一体化し活動を行っている。今年度は各病棟にリンクナースを配置し、ICTを組織化し実践活動を開始した。日常の感染対策は、コスト削減も考慮しつつ、EBM (evidence based medicine) に基づいた業務改善を行った。手洗いの動機付け・感染意識の向上のために、単に外部講師による講演を行うだけでなく、手洗い調査・オスバン使用量調査など様々な面から啓蒙活動を行った。さらに病棟ラウンドを開始し、各部署での実態調査と指導にあたっている。当院における3年間のICT活動及び課題を報告する。

I. 活動内容

1. 感染症発生状況の把握と対策

MRSA・緑膿菌の病棟別・月別・検体別検出動向の評価をし、検出の多かった病棟には手洗いの徹底を呼びかけた。各種細菌検出状況を把握し、IVH感染調査をした。流行性感染症の、SARS・3日熱マラリア・疥癬に関して対策を検討した。

2. 院内感染防止マニュアルの改正

院内感染症予防マニュアル改訂版を15年に完成させた。その後中心静脈カテーテル・末梢カテーテ

ルマニュアル・疥癬マニュアルを追加した。

3. EBMに基づいた業務改善

感染対策の日常業務を、EBMに基づき変更した。廃棄物処理方法の変更・IVH挿入部のドレッシング剤導入・閉鎖システムの全病棟導入・ガーゼ鑑子の単包化・食器乾燥機の病棟配置・吸引チューブの再利用中止・殺虫剤散布の中止などを実施した。EBMに基づいた感染対策をすると、コストも削減できる。そして新しい安全対策器具購入もできるため今後も検討していく。

4. 教 育

手洗いの意識を高めるために、オスバン使用量調査・手洗い消毒手順パネル200枚掲示・職員のみRSA保菌状況手洗い検査など実施した。また各病棟にリンクナースを設置し、組織化し活動を開始した。病棟ラウンドを開始し、現状把握や指導を行った。外部講師を招き、聴くだけの講演ではなく、実際に手洗い検査やエプロン手袋装着などの実演形式をとり啓蒙活動をした。

II. 今後の課題

ICTではMRSAの減少を目指し、強いては撲滅を目標に、手洗いの徹底を強化させるべく活動をしていく。病院機能評価のVer.5は、サーベイランスの実施が必要となる。今後も看護部のMRM委員と連携し、リンクナースの教育プログラムを作成し活用していく。